

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370768

研究課題名(和文)先駆的英国人日本学者による国学の受容と評価に関する発展的研究

研究課題名(英文) Progressive Study on Reception and Evaluation of Kokugaku by the pioneer British Japanologists

研究代表者

梶尾 達哉 (TORAO, Tatsuya)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：30164065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に連合王国における図書館等諸機関で調査を行った。とくにケンブリッジ大学図書館においては、W.G.アストン旧蔵の国学著作に見えるアストンおよびE.M.サトウの鉛筆書き入れを精査し、両者ともに国学著作を熱心に精読したことを確認した。その結果、アストンは「英訳日本紀」の脚注において、それらの国学著作の見解を客観的にまた批判的に利用していることが判明した。

研究成果の概要(英文)：I investigated mainly at some libraries in the UK. At Cambridge I found many pencil notes of W.G.Aston and E.M.Satow written in Kokugaku books, and confirmed that both read Kokugaku books carefully and eagerly together. As a result, I made it clear that Aston used critically and objectively the opinions in those Kokugaku books when he wrote his footnotes of "Nihongi".

研究分野：日本史

キーワード：アストン サトウ 国学 蔵書目録

## 1. 研究開始当初の背景

E.M.サトウ、W.G.アストン、B.H.チェンバレンらは、幕末・明治期に外交官や外国人教師として英国より来日・滞在し、広く日本の事物・文物に関心をもって多くの著作を表した先駆的日本学者である。

研究代表者は平成16～18年度および平成22～25年度に科学研究費補助金の交付を得て、幕末・明治維新时期における先駆的英国人日本学者らのネットワークと国学の受容・評価についての研究を進めてきた。その成果として、サトウ、アストン、チェンバレンらが横浜の日本アジア協会を拠点としつつ、活発に交流して学問的ネットワークを保ったこと、その中心となったのはサトウの推定2万冊にも及ぶ和書であったことが明らかになった。また、とくにアストンがその著作において、しばしば宣長・篤胤ら国学者の所説に冷静に批判を加えつつも、学者として深い敬意をもって引用していることに着目し、ケンブリッジ大学図書館所蔵のアストン旧蔵和書を実地に調査したところ、国学者の著作を含む多くの和書にアストンあるいはサトウによる鉛筆書き入れが残されていることを確認した。これらの書き入れはアストンやサトウが国学の著作や古典にどのような関心を持って臨んだかを端的に示すものとして極めて重要であるが、従来は写真撮影が認められていなかったため、筆写以外に資料収集の方法がなく、残念ながら、判読困難な書き入れについては事実上収集を断念せざるをえず、また、未収集資料を多くの残す結果となった。しかし、その後、本研究開始直前になって、ケンブリッジ大学が写真撮影を解禁したことにより、書き入れについての悉皆的資料収集が可能となった。

## 2. 研究の目的

ケンブリッジ大学図書館所蔵の「アストン和書目録」(Catalogue of W.G.Aston's Collection of Japanese Books)はアストン自身

による膨大な蔵書目録であり、日本では知られていない文献であるが、この目録に登載された国学著作や古典作品と同図書館所蔵のアストン・コレクションに現存する国学著作や古典作品とを照合した上で、資料収集環境好転を生かして、サトウとアストンの書き入れ状況を悉皆的に精査して、彼らと国学との関わり、その受容・評価について解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

幕末・明治期の先駆的英国人日本学者、とくにアストンとサトウが国学著作について具体的にどのように研究していったか、国内外に散在する彼らの旧蔵書中にいかなる国学著作が存在するか、彼らはそれらをどのように活用したか、以上を実地に調査することによって、我が国の国学が19世紀から20世紀にかけての先駆的英国人日本学者からどのような学問的評価を受けていたのかを明らかにしようとした。

具体的には、以下の方法を中心に研究を進めた。

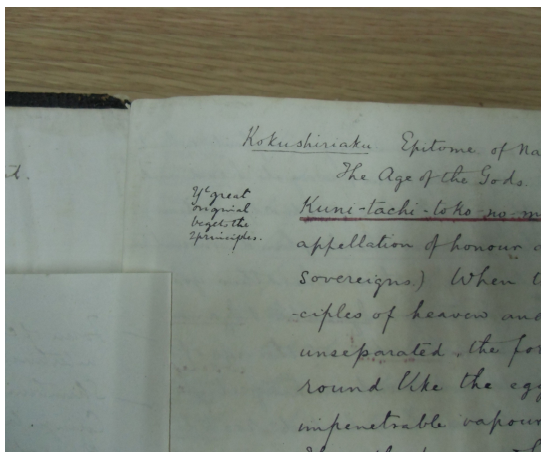
英国ロンドンの国立公文書館において、Satow Papersのうち、サトウの日記(P RO30/33/15/1-7)およびノート類をデジタル・カメラで撮影し、画像をUSBメモリに保存する。

で収集した資料から、国学者・国学著作関連の記述をUSBメモリに保存する。同国ケンブリッジ市のケンブリッジ大学図書館において、「アストン和書目録」登載の国学著作と当図書館所蔵アストン・コレクション中の国学著作・および古典作品との照合・書き入れ調査を行い、調査結果をUSBメモリに保存する。

アストン旧蔵書中、ケンブリッジ大学図書館所蔵アストン・コレクション以外に現存する書物についても調査を実施する。

#### 4. 研究成果

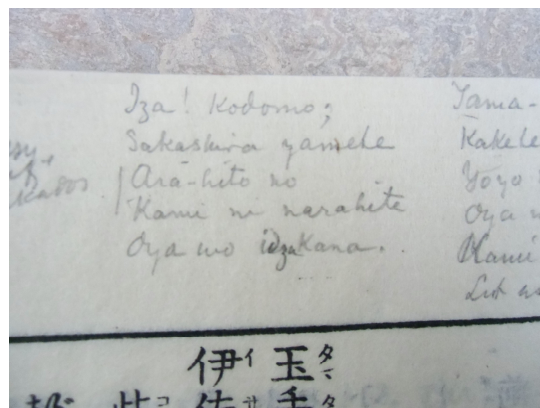
国立公文書館所蔵のSatow Papersにおいてサトウの日記とノート類を調査し、サトウが国学著作をノートを取りながら学習した様子が判明した。また、歴代の天皇・将軍などについても独自にノートを作成して学習するなど、日本の歴史についての基礎的な勉学の過程も明らかになった。



(「国史略」についてのサトウの学習ノート)

ケンブリッジ大学図書館のアストン・コレクションとして現存するアストン旧蔵書のうち、国学著作および日本古典(玉かつま、柳庵随筆初編、神代紀髻華山蔭、霊能真柱、古史徴、玉たすき、入学問答、俗神道大意、くずはな、鬼神新論、古今妖魅考、未賀能比連、祝詞考、祝詞正し訓、大祓詞後釈、出雲国造神寿後釈、玉くしげ別本、古事記伝、古語拾遺講義、校正日本書紀、延喜式、詞捷径、字音假字用格、漢字三音考、標註古語拾遺、平家物語、竹取翁物語解)にアストンおよびサトウによる多数の鉛筆書き入れの存することを確認し、これらをデジタル・カメラで撮影し、資料として収集し、分析を加えた。その結果、アストンもサトウも国学者による著作の内容を精力的に理解・研究したこと、とくにサトウは日本語の音韻や文字について国学著作に多大の関心を払ったことが確認された。総じて日本学についての著作という点で、サトウはアストンに及ばない印象をうけるが、こと日本語に関する限り、実際にはアストン

に劣らない深い学識を国学著作を通じて身につけていたと推測される。



(「玉たすき」へのアストンの書き入れ)

また、本研究では上記アストン・コレクションの外に現存するアストン旧蔵書についても調査した。その1は三上参次・高津鎌三郎著『日本文学史』(上下2巻)で、ケンブリッジ大学図書館内に現存するが、コレクション内には含まれていない。その経緯は不明であるが、同書にはアストンによる夥しい鉛筆書き入れが見られ、アストンの代表的著作の一つである「日本文学史」(A History of Japanese Literature)との関連が注目される。その2は「アストン和書目録」に「27 plays by Chikamatsu Monzayemon」(近松27戯曲)と記され、さらに追記で「大英博物館送致」と見える一連の書物である。かつて大英博物館の所蔵図書を引き継ぐ現大英図書館において調査した結果、これらの書物は同館架蔵の27の浄瑠璃正本(藍染川、佐々木先陣、天智天皇、本領曾我、浦嶋年代記、最明寺殿百人上臈、心中重井筒、心中二枚絵草紙、堀川波鼓、丹波与作待夜の小室節、淀鯉出世瀧徳、五十年忌哥念仏、今宮の心中、曾我虎が磨、吉野都女楠、長町女腹切、夕霧阿波鳴渡、天神記、山崎与次兵衛壽の門松、博多小女郎波枕、日本武尊吾妻鏡、都国女夫池、女殺油地獄、加増曾我、小そでうり、主馬判官盛久)であると特定した。その多くは柳亭種彦旧蔵本であった。アストンは生前、その蔵書を死後ケンブリッジ大学に寄贈(売却)するとし

ていたが、当時サトウやアンダーソンがその蔵書（和書）を大量に大英博物館に寄贈していたことになり、若干の蔵書については寄贈先を大英博物館に変更した。博物館に相応しい逸品と考えたことによるか。大日本史（100冊）や倭漢朗詠集も同様であったことを実地に確認することができた。なお、この大英図書館での調査結果にもとづき、川瀬一馬・岡崎久司共編『大英図書館所蔵和漢書総目録』（1996年）の記載を一部補正し、その成果を鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集85号に「ケンブリッジ大学図書館蔵「アストン和書目録」について（12）」として発表し、学界に情報提供を行った。

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者 なし

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2本）

虎尾達哉、ケンブリッジ大学図書館蔵「アストン和書目録」について（12）

鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集、査読なし、85号、2018、pp.57-73

虎尾達哉、アストン『英訳日本紀』脚注抄訳稿（7）鹿大史学、査読なし、62号、2015、pp.9-21

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

虎尾 達哉（TORAO Tatsuya）

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授  
研究者番号：30164065

(2)研究分担者 なし